

カツラマルカイガラムシ(仮称)の生態と防除に関する研究
(予報) 大分県における発生について

平山好見・秋田忠夫・野上隆史・宮崎政善
(大分県農業技術センター)

HIRAYAMA, Y., AKITA, T., NOGAMI, T., and MIYAZAKI, M.
Studies on the bionomics and control of *Quadraspidotus macroporanus*
Takagi (Hom., Diaspididae) on the chestnut tree.
Preliminary note on the occurrence in Oita prefecture.

本虫は1966年4月日田市高花のクリ園で大分県では初めて発生を確認し、その後各地で急激にまん延し、クリの増植を勧めている地域の被害は大きく、本虫の発生はクリ栽培上の重要な問題となってきた。しかし本種に関する生態などの報告は殆んどみられないので、1966~1970年に発生状況などの調査を行ったのでその結果の概要を報告する。なお、本種の同定と研究にあたり種々御教示いただいた、北海道大学農学部高木貞夫博士、農林省園芸試験場於保博士、東京都農業試験場河合省三氏ならびに当所富永信所長の各位に対し感謝の意を表する。

(1) 発生概況

大分県における発生地および年次分布は、第1図のとおりである。1966年に玖珠町で確認され、1970年までには県内ほぼ全域で確認されるに至った。



(2) 被害および虫の形態

本種は枝幹に寄生し、樹皮の全面を覆うように、

や、密に寄生する傾向があり、寄生の多い樹では樹勢が衰え早期落葉や、生育の停止をまねき、早いものは1~2年で枯死するに至る。また寄生の多いものでは樹皮が縦に割れることもある。

雌成虫の介殻は灰黒褐色円形、殻点はあるが中央、直径約2mmでふくらみ、虫体黄色。雄の介殻は長円形でや、小さく殻点はやや片寄る。

(3) 寄生植物

クリの発生園付近の寄主植物について調査したが、その結果は第1表のとおりで芝栗、みずなら、くぬぎなどのぶな科が高い寄生を示しており、その他は、やまざくらなどで8科13種に認めた。

第1表 寄 主 植 物

和名	科名	確認年月	確認地域名
ク	リブナ科	43年11月	耶馬溪町, 山香町, 日田市, 玖珠町, 中津市
く	ぬぎ	43. 11	耶馬溪町○玖珠町, 日田市
み	ずなら	43. 11	耶馬溪町○玖珠町
や	まさくら	44. 7	日田市○耶馬溪町
の	いばら	44. 7	日田市○
ブ	ドウ	43. 11	玖珠町○
き	リゴマのはぐさ科	43. 11	玖珠町○
や	まねこやなぎ	44. 7	日田市○
は	ぎまめ	44. 7	日田市○玖珠町
や	まはぜうるし	44. 7	日田市○耶馬溪町
カ	キカきのき	44. 11	玖珠町○
く	すまめ	45. 5	耶馬溪町○
こ	ならぶ	43. 11	耶馬溪町○玖珠町, 日田市

(注) 確認年月は○印地域名の年月を示す。

(4) 総括

本県におけるカツラマルカイガラムシは、1966年に初めて確認され、その後4年間に、県内全域で確認されるに至った。現在まで九州における本種の発生は見当たらないようであり、おそらく九州における発生初確認と考える、寄生植物は8科13種であった。